

企業の価値観を浸透させる ブランドスローガンの策定

「ソリューション企業」としての姿を社内外に浸透させるとともに、マーケティング機能の強化と戦略的な事業イノベーションを生み出す体制づくりを見据え、「ブランドスローガン」

▼ 取り組み内容

Step 1 役割の研究 ブランドスローガンが企業活動に果たす役割について文献などで調査するとともに、自社の企業文化を踏まえた定着のあり方について検討した。

Step 2 事例調査 イノベーションを起こしてきた世界的企業のマーケティングやブランド戦略を分析し、応用の可能性を検討した。

Step 3 提供価値の整理 従来は顧客と捉えてこなかった層に対して、どのような価値や体験が提供できるかを整理した。

Step 4 策定および活用検討 既存のサービスブランドと照合し、ブランドスローガン策定の方向性と具体的な活用方法を検討していく。

受入企業

グランファルマ株式会社

代表取締役兼薬局開設者

柴田 剛介 さん

1983年創業。薬に頼らない健やかな毎日の実現を目指し、「薬ZEROの未来へ。」をミッションに掲げ、その一環として、県内を中心に保険調剤薬局「あおぞら薬局」を展開する。心身を癒すソリューションとしてヨガスタジオや薬局、カフェ等が入居する複合型コミュニティ施設も運営。薬剤師の視点で選ぶ、プロ仕様のサプリメントや栄養食品なども提供する。

研究員

大平 ひとみ さん

化粧品OEMメーカーにて研究開発、大手化粧品メーカーにて商品開発に従事し、商品設計から販売促進まで一貫して経験。2019年の起業後は、製品開発ほか、文化を生かしたイベント企画などを事業としている。2024年からは法政大学大学院の中小企業サステナビリティ経営研究所にて特任研究員も務めており、ものづくりや事業のあり方をサステナビリティの観点から研究している。

共創型企業・人材展開プログラム 事例

CASE:

企業イメージの
変革に向けた
スローガンの探求



取り組みの成果
・
今後の取り組み

- ・世界的企業が、縮小する市場の中でどのようなマーケティングやブランド戦略に取り組んできたかを分析した。その上で、自社が社会に対してどのような価値を提供できるかを整理した。
- ・「ソリューション企業」としてのイメージを、社外はもちろん社内にも浸透していけるよう、ブランドスローガンの策定に取り組んだ。
- ・今後、展開中の各サービスにブランドスローガンを落とし込むための戦略を検討する。

企業の評価・今後の関わり方

参加理由

- ・当社は「薬局」というイメージが根強く、事業の方向性に対して多様な人材の確保に課題がありました。「お客様の心身を癒やすソリューション企業」というイメージを社内外に浸透させる施策を考えるため、外部人材の視点や刺激を得ようと参加しました。

評価（成果・社内変化など）

- ・明るく積極的に社内に働きかけていただいたおかげで、社員がブランディングやマーケティングの重要性に気づくきっかけになりました。
- ・世界的な企業が、縮小していく市場の中でいかにブランドを構築しパラダイムシフトを起こしたかについて、詳しく調査していただきました。こうした事例と比較しながら自社の事業を捉え直すプロセスは、とても有意義でした。
- ・経営課題の分析や研究業務に社員一人を専任で割くことは、一般企業ではなかなか難しいものです。大学の支援を受けてそれを実施できるのが、このプログラムの大きな意義だと思います。

今後の関わり方

- ・大平さんが取り組んだ「世界的な企業の戦略を研究し、自社のアイデンティティを再定義する」という手法は、県内の中小企業に対する支援パッケージになり得ると考えます。広く活用されるよう、当社も協力したいです。

研究員の評価・今後の展望

参加理由

- ・「学術と実務の循環的な学びの中で視野を広げたい」という思いからエントリーしました。グランファルマには、業界の当たり前を問い直して生活者に寄り添う明確なビジョンがあり、強く魅了されました。

評価（取り組み・生活）

- ・世界的な企業のブランド戦略を詳しく分析していく中で、ブランドスローガンは企業の成り立ちや市場での立ち位置など複合的な視点から深く検討しなければならないとの学びを得ました。
- ・上記を実践するため、できるだけ多くの社員と対話し、さまざまな考え方を集めることを最も強く意識しました。その中で、悩みに耳を傾けるなど、社外の人間だからこそできる役割も果たせたと思います。
- ・金沢大学の講義では、クリエイターや人材コンサルタントなど、異なる背景を持つ研究員がおり、積極的に議論を交わしました。視野が大きく広がるきっかけになりました。

今後の展望

- ・フレームワークを使って経営を分析すると安心感が得られます。しかし、それでは本質を見逃し、自由な発想が妨げられるリスクがあるとの反省がありました。この経験を、今後の自分の強みとして活かしていきたいと考えています。